

GOD WITH US

Part 8: JESUS

Message 12 – Decision Time
“Who do you say that I am?”

神は我らと共に

パート8：イエス様

第12メッセージ決断の時

「わたしを誰というか？」

はじめに

イエス様は、約3年間、イスラエルの地方を伝導され、天の御国を宣言され、ご自身が救い主であられることを証明する奇跡を行われた。2年目の終わりに向けて、イエス様は、エルサレムにおける、拒絶、死、復活について語り始められたとき転換点に達された。

この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。(マタイ16:21)

十字架へ向かわれる行動が、この先の主な焦点となる。しかし、イエス様は、その前に、弟子たちをその転機のために整えられた。イエス様が神の御子、救い主であられるという理解と信念を弟子たちに公に宣言させるために質問された。彼らに偉大な「信仰告白の瞬間」をもたらされたのである。そのために、まず一般的な意見を定義するように、弟子たちに要求された。その上で、イエス様は、世論を背景に、彼らに自分たちの告白をするよう質問された。

イエス様、弟子たちに世論をお尋ねになる

イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。(マタイ16:13, 14)

イエス様の使命の経過とともに、人々はイエス様が誰であるかについての様々な意見を述べた。その質問に対する様々な意見が、人間によって、天使によって、悪魔によって、そして、父なる神によって表現されている。

共におられる神、インマヌエル (マタイ1:23)

いと高きお方の御子 (ルカ1:32)

ユダヤ人の王 (マタイ2:2, 11)

罪を取り除く神の子羊 (ヨハネ1:29, 36)

父なる神が愛される御子 (マタイ3:17)

神の聖なるお方 (マルコ1:24)

病気と悪霊を支配される方 (マタイ8:8, 9)

食をむさぼる者、大酒を飲む者 (ルカ7:34)

ダビデの子 (マタイ9:27)

サタンに属する者 (マタイ9:34)

狂人 (ヨハネ10:20)

待ち望まれて来たお方 (マタイ11:3)

大工ヨセフの息子 (マルコ6:3)

死人の中から蘇った、バプテスマのヨハネ (マタイ14:1, 2)

神の御子 (マタイ14:33)

死人の中から蘇られた預言者エリヤ (マタイ16:14)

死人の中から甦られた預言者エレミヤ (マタイ16:14)

福音書作家の主な目的は、イエス様が救世主、神の御子、世の救い主であったという事実を立証することであった。しかし、彼らは反対する者たちの意見を隠さなかった。イエス様について、人々が抱いていた様々な意見を正確に説明した。

イエス様は、カエサレア ピリピという非常に相応しい場所で、意見を尋ねられた。「この地域は、様々な宗教と強く結びついていた。バアル崇拜の中心地であり、ギリシャの神パンのための神社があり、ヘロデ大王は、アウグストゥス・カエサルを称えるために、そこに寺院を建てた」(W.Wiersbe、解説、第1巻57頁)。

イエス様は、なぜ弟子たちにイエス様についての公衆の意見(世論)を尋ねられたのでしょうか？イエス様が如何に人気があるかを知らうとしておられたのでないことは確かである。さらにイエス様は、すでに人々が考えていることをご存知であった。その理由は、弟子たちが公衆の押し寄せる波に喜んで立ち向かうかどうかを見たいと願われたからである。弟子たち自身のイエス様についての見解を尋ねようとしておられた。そして、彼らの見解が必然的に世論に反することをご存知であった。事実、イエス様は、彼らの人生と評判に関わらず、将来イエス様の証人になる意志があるかどうかを尋ねておられた。以前、イエス様は言われた：

人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。(マタイ10:32, 33、ルカ12:8, 9)

今日、イエス様の存在について多くの意見が行き交う。善良な人、教師、霊的ガイド、預言者、魔術師、天使であった、そも

そも存在しなかった。私たちは「真実」という考えが疑問視されている時代に生きている。したがって、イエス様についての意見は、重要ではない。しかし、イエス様自身(および他の聖書作家)は、イエス様についての自分の意見が重要であると言っている：だからわたしは、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬであろうと、言ったのである。もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである」。(ヨハネ8:24)ヨハネは、次のように記している：自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。(ローマ10:9, 10)さらに、偽り者とは、だれであるか。イエスがキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。

(第一ヨハネ2:22, 23)さらに、愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。(第一ヨハネ4:1-3)あなたにとって、人々によるイエス様についての意見は重要ですか？イエス様と使徒を真剣に受け止めるならば、イエス様についての意見は永遠の結果である。神の永遠の家族の一員になるために、イエス様は神の御子、救い主であると信じることは必須である。それが、今日、公衆の意見や一般の意見に関わらず、クリスチャンが「イエス・キリストは主である」と告白(ピリピ2:11)し続けることが大変重要である理由である。

イエス様、弟子たちに信仰を告白させる

世論を背景に、イエス様は、弟子たちに目を向けられると、彼ら自身の信念を表明するよう求められた：

「しかし、あなたはわたしを誰と言うか」(マタイ16:15)

ペテロは指導者の中の指導者とみなされ、頻繁にグループを代表して語ったので、弟子たちを代表して、ペテロが大いなる信仰をイエス様に告白したことは驚くことではない。

シモン・ペテロが答えて言った、
「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。
(マタイ16:16)

福音作家は、歴史を記録するだけでなく(ペテロの告白)、初期のキリスト教会のための神学と教訓を提供した。したがって、ペテロの告白は、イエス様の弟子になる際の理想的な告白である。(注：4つの福音書は、イエス様の生涯の後、数十年の最初のキリスト教徒あてに記されている。したがって、福音書は、キリスト教コミュニティに向けられた教育的目的のための書物である。)

ペテロの告白に答えて、イエス様は幾つかのことを述べられた：

1. ペテロをそこまで導かれたのは神であった。

イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

(マタイ16:17)

ペテロが最初にイエス様に出会った瞬から、父なる神と聖霊様は、御子であられる神の真のアイデンティティをペテロ

に明らかにされるために働いておられ、完全な信仰まで導いてこられた。ペテロが繰り返し印しを見る度に、小さな信仰の一步を踏み重ねたので、神が、この最後の告白の瞬間を可能にされた。常に協調的な努力、つまり、神の御手によって招かれ、一つ一つの些細な神の招きに応答する人の心が鍵である。

2. 将来、ペテロは指導者たちの中の指導者となり続ける。

わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。

(マタイ16:18)

イエス様が教会を建てられる「この岩」については、多くの議論が存在する。ペテロ(その名前は「岩」を意味する)を意味するのでしょうか？イエス様(教会の礎石)を意味するのでしょうか？ペテロの告白の声明(人々が教会の一部になるために告白する必要がある)を意味するのでしょうか？イエス様が意味されたのは、初期の教会の指導者たちの上に立つ者として、ペテロを指しておられたというのが共通の見解である。その個所は、ペテロの不可誤を支持するものでも、教会の支配者になる「ペテロ」の継承を指すものでもなかった。ただ単に、ペテロが最初のキリスト教徒の主要なスポークスマンとして指導者たちの上に立つ指導者として機能し続けることを指している。実際、ペテロはペンテコステの日にイエス・キリストについての最初の偉大な説教(告白)をした。その結果、キリスト教会が誕生した(使徒2参照)。

3. イエス様は、ここでご自身の「教会」について最初の言及をされた。

「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ16:18)

それは、初めて「教会」という言葉がイエス様の信者を指すために用いられる箇所である。「ekklesia」という言葉は、ギリシャ人読者には、様々なコミュニティ団体や集会を表すために用いられたので良く知られていた。しかし、イエス様は、その言葉に新しい意味を与えられた。元々その言葉は、「呼ばれたもの」という意味である。イエス様は、信者が世から呼び出されて、神の国の者となると言われた。つまり、暗闇から光の中に呼ばれた者。また、イエス様の教会がハデス（地獄）の門が抵抗することが出来ない戦いの力であることをここに示された。その描写は、邪悪な力を逃れようとする、防衛ではなく、「地獄の門」を攻撃する教会を描いている。

4. イエス様は、ペテロ（と弟子たち）に地上においての権威を授けられた。

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。（マタイ16：19）

「鍵」とは、「権威」の象徴である。（参照：ヨハネの黙示録1：18で、復活されたキリストが、「死の鍵とハデスの鍵」を持っていると言われる。すなわち、イエス様は、死の領域を完全に支配しておられるということである。）ペテロとその仲間、地上において、キリストの代理人として、行動する権威が与えられていた。彼らは以前にも、この権威を授けられ（参照：マタイ10：1）、また、後にも授けられる（マタイ28：18-20）。マタイの福音書18：18では、それと同じ権威を「あなた方が赦す罪は、誰の罪でも赦され、あなた方が赦さずにおく罪は、そのまま残るであろう」という同じ権限が、より多くの弟子たちに与えられた。

5. イエス様は、弟子たちに、イエスの身元を秘密にしておくよう戒められた。

イエスは、自分がキリストであることをだれにも言うてはいけないと、弟子たちを戒められた。（マタイ16：20）

この秘密にする戒めの理由は、イエス様は拒否され、十字架に向かわれ、世の罪のために死なれる必要があったからであった（次の数行で説明された通り）。展開していくイエス様の使命のタイミングを考慮すれば、待望のメシアとして人気の蜂起の歓喜の呼びかけは適切ではなかったため、イエス様は、その時点では、まだメッセージを広げないように「使徒」たちに命じられた。

6. イエス様は、死なれ、再び復活されることを弟子たちに告げられた。

この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。（マタイ16：21）

それはイエス様ご自身による、死と復活に関するいくつかの預言の中の最初のものであった。ギリシア語の"dei"（日：しなくてはならない。英："must"）は、神に任された必要性を示している。

ペテロの異論

すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者

だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。(マタイ16:22-23)

ペテロの偉大な告白という頂点に続いて、大失敗の場面へと展開する。ペテロは、イエス様の預言が間違っていると言った！ペテロは、イエス様の否定的な思考、公表された大惨事から、イエス様を救い出そうとした。

イエス様は、最も謙虚な方法で、彼を正した：サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。イエス様は、ペテロをサタン呼ばわりされたのではなかった。しかし、サタンがペテロの心の中で働いていたので、神の目を通してではなく、人の目で物事を評価させたことを指摘された。

神は言われた：「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。(イザヤ書55:8, 9)」サタンの戦略は、神の目を通してではなく、それ以外の見方を通して、私たちに物事を見させようとする。私たちがそうするとき、神と議論し始める(ペテロと同様に)。誰かが死んでしまったときに、私たちは言う：それは間違っている！神は言われる：主の聖徒の死はそのみ前において尊い(詩篇116:15)。わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である(ピリピ1:21)。または、苦難が訪れたときに、神に言う：なぜ私がこんな目に合わなければならないのでしょうか？なぜ愛してくださらないのでしょうか？神は言われる：わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っており、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。(ヤコブ1:2, 3) 間違ったレンズを通して見ると、歪んだ思考が生じ、愚か者は、神と議論する。ペテロは「十字架」

という言葉聞いて、「敗北」と考えた。イエス様は、「十字架」という言葉を用いられたとき、「勝利」と考えられた。あなたも自分の目ではなく、神の目を通して物事を見ることが出来るように、祈りましょう。

弟子への呼びかけ

それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう。

(マタイ16:24-27)

イエス様が十字架上でのご自身の死を予言された後、弟子たちをに振り向いて、それぞれ、自身の十字架上で「死ぬ」よう求められた。多くの点で、彼ら自身の議題、彼ら自身の意志、彼ら自身の世俗的な追求のために死ぬ必要があると教えておられた。自分自身のために生きて、永遠の報いを失うか、または、イエス様のために生きて、地上における報酬を失うかを選択する必要が彼らにあった。

永遠の視点に生きるか、明日もわからない命、飲み食いして楽しむ(ルカ12:19、第一コリント15:32)か、それは常に私たちに迫られる選択肢である。イエス様は従者に、常に命の終わりを見据えながら、天に宝を貯めながら、人の拍手ではなく、天の御父の承認を求めながら、生きる様に教えられた。マタイの福音書第

16章27節で、イエス様は言われた。いつか報酬は与えられる！この世ではなく、次の世で。それを信じて生きましょう！きっと後悔することはありません！

父なる神によるイエス様の見解：

マタイ17：1-8、マルコ9：2-8、ルカ9：28-36

イエス様のアイデンティティに関する前述の議論に照らして、続いた出来事は非常に相応しい。イエス様は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを一緒につれて山頂に連れて行かれた。イエス様は彼らの目の前で変貌された（イエス様の栄光の姿が一時的に回復した）。（ペテロはこの重要な出来事を第二ペテロ1：16-18で触れている。）モーセとエリヤがイエス様に現れ、イエス様が間もなくエルサレムで成し遂げようとしておられる「出発」（文字通り、彼の死、復活、昇天のための隠喩）について話会われた（参照：ルカの福音書9：31）。ペテロは、三つの「幕屋」（神聖なテント）イエス様のために一つ、モーセのために一つ、そしてエリヤのために一つ立てることを提案した。それから、天からの声が鳴り響いた：**彼がこう言っている間に、雲がわき起って彼らをおおいはじめた。そしてその雲に囲まれたとき、彼らは恐れた。すると雲の中から声があった、「これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け」。**そして声が止んだとき、イエスがひとりだけになっておられた。弟子たちは沈黙を守って、自分たちが見たことについては、そのころだれにも話さなかった。（ルカ9：34-36）

父なる神は、イエスについての意見を宣言された。イエス様は、モーセと同等の宗教指導者ではない。エリヤと同等の偉大な預言者でもない。イエス様は、山頂の三つの神聖な幕屋には属されない。

**これはわたしが選んだ者、わたしの息子である。
彼の言うことを聞きなさい！**

まるで父自らが、人々のあらゆるおしゃべりと、ざわめきと、出回った偽のニュースと、イエス様についての誤った考え方の全てを切り崩し、イエス様について自ら証しされたかの様であった。この重要な瞬間を含めることによって、福音書作家たちは、事実上あなたが考慮する必要がある決定的な意見を述べている。あなたが、もし、父なる神が発された見解以外のイエス様についての見解を持っておられるなら、あなたはその議論の誤った側に立っておられることになるのです！

討論のための質問

1. あなたが接する人々との会話から耳にする、イエス様についての最も一般的な意見は何ですか？
2. 使徒4：11, 12を読みましょう。ペテロはイエス様の正体について何と述べましたか？
3. ペテロの手紙第3：15を読みましょう。私たちがイエス様の信念について他の人と話すとき、どんな態度が私たちに支配するべきですか？
4. 定義しない信念を好む文化の中で、イエス様を強く信じる信仰を保ち続けるとき、あなたにとって最も困難なことは何ですか？
5. 人々が証拠を研究し、イエス様のアイデンティティに関する個人的な決断にたどり着くことを助ける、簡単な学習教材が身近にたくさんあります。あなたは誰かに、人としてのイエス様とその働きに焦点を当てたスタディガイドを紹介することを検討されたことがありますか？例：「イエスの生涯を見る - 著書：レベッカ・ピッペルト。『Jesus 101 - 著書：ビル・ドナウ』。イエスの特異性 - CRU。オンラインの資料が沢山存在します！
6. クリスマスは、人々がイエス様について何かを学ぶために教会に来るよう呼びかける最高の（最も自然な）機会です。クリスマスやクリスマス・イブの礼拝に誰かを招待する準備を整えておられるでしょうか？